

ギャンブル依存症は

不治の病

佐野弘美議員は3月5日、道議会保健福祉委員会で、ギャンブル依存症の相談対応と実態把握をただし、「ギャンブル依存症に悩む人の人数や被害の実態も把握できないのに、知事の『万全の対策』などありえない」と追及しました。

佐野道議の、道内のギャンブル

ンブル依存症に悩む人の相談件数や、多重債務など影響が出ている人にかかわる、道の把握状況についての質問に対し、全道での相談件数は2016年で550件に過ぎず、多重債務などについては個々の相談事例についての把握のみで、「相談に至っていない人の把握は難しい」と答え、その全体像が把握されていないことを明らかにしました。

佐野道議は、ギャンブル依存症の全体像や、進行した症状への対処法も確立されないのに、「万全の対策」など不可能だと迫り、今後の対策をただしたのに対し、佐藤敏保健福祉部長は「ギャンブル等依存症対策基本法に基づき、検討を進め、対策に取り組む」と答えるにとどまりました。

宮川潤議員は2月6日、道議会少子高齢社会対策特別委員会で、介護職員の人材確保と処遇改善についてただしました。

処遇を改善して

介護職員の確保を

佐野道議は、子どもの精神医学の学術団体から「ギャンブルは家庭を侵食し、多くの子どもを脅かしている」と書かれた手紙を受け取ったことを紹介し、自身の体験にも触れながら、知事が前日までの予算特別委員会で「道として適切な判断につながるよう、私の任期中に取りまとめる」と明言して、カジノを含むIRの誘致に前向きな姿勢を打ち出していることについて、「道として適切な判断をとらなければならぬ」と断念すべき」と迫りました。

職員不足を感じている事業所が58・6%にのぼると報告した道の「介護職員実態調査」の結果について、宮川道議は「前年度の不足感52・7%から悪化している。処遇改善が進んでいるのか」とただしました。

「平均で月額20000円増加」との道の回答に、宮川道議は「介護職員は全産業平均より月額8万4000円も低い。20000円増加では不十分」と指摘し、「一部の加算ではなく、介護報酬そのものを引き上げて処遇改善すべきだ」と主張しました。



質問する佐野弘美道議 3月5日

盲導犬育成への

支援強化を

共産党道議団は、昨年12月には札幌市南区にある北海道盲導犬協会を、1月には札幌聴覚障がい者協会が運営する手稲区の聴覚障がい者向け2施設を訪問し調査を行ってきました。

佐野弘美議員は、5日の道議会保健福祉委員会で、盲導



道議団の盲導犬協会訪問 佐野道議 (右)

犬協会と盲導犬育成事業について道の認識をただし、支援強化を求めました。

東秀明障がい者保健福祉課長は、協会が大変重要な役割を担っているとの認識を示し、平成30年度は、盲導犬、介助犬、聴導犬育成にかかわる、7頭分の助成額が1260万円であると答えました。

佐野道議は、北海道盲導犬協会が1978年に世界

で初の老犬ホームを作り、視覚障がい者のみならず盲導犬の福祉も追及していることを紹介し、「保健福祉部長自身が現場に向いて要望を知り、障がい者福祉施策の充実と視覚障がい者が安心して暮らせる社会を確立すべ

き」と求めました。

佐藤敏保健福祉部長は、旅館や飲食店の団体に盲導犬入店への配慮を求めてきた。協会を訪問し実態を伺う機会をつくると答えました。

種子法復活

全会一致で条例可決

道議会は「北海道主要農産物等の種子の生産に関する条例案」を全会一致で可決しました。

この条例は、安倍政権が民間企業の市場参入を阻害するとの口実で廃止した、主要農産物種子法と同じ内容の条例で、山形、新潟、富山、埼玉、兵庫に続き全国6番目です。

条例は、遺伝子組み換え農産物の栽培などを防止するもので、条例案の民間業者とは「農協などを前提にしたもので多国籍企業の参入を想定していない」ことを明確にさせるなど、共産党道議団は条例

成立に尽力してきました。

北海道の条例は、米、麦、大豆の主要農産物とともに、小豆、えんどう、いんげん、そばの種子も加えた「主要農産物等の安定的な供給及び品質の確保を図る」と明記したものになりました。

泊原発事故対応

バス運転手不足の危惧

道原子力安全対策課は3月1日の道議会予算特別委員会で、泊原発で事故が起きた際、民間バスによる住民避難が困難な場合は、国の指針に基づき「自衛隊などの実働組織の支援を受ける」と述べました。

宮川潤議員は、2月21日の地震でJRや札幌市営地下鉄が運休し、代替え輸送バスの運行が遅れたことに照らし、「運転手の確保が一層困難になる」と指摘しました。

高すぎる税金、国保

何とかして！

2月16日、紙智子参議院議員とともに、区内の商店街役員を訪問し、消費税増税や、高すぎる国保料などについて、懇談しました。

昨年11月1日に日本共産党が発表した「高すぎる国民健康保険料(税)」を引き下げ、住民と医療保険制度を守ります」の提言を示し、問いかけると「税金や保険料はかなり大きい。税金のために働いていくようなものだ」と応じました。

また、「消費税は半年分などまとめて納めるが、この負担が大変。せめて8%で維持して欲しい。利益が薄いところで踏ん張っているのに、これ以上上がると困る」と苦しい胸の内を明かしました。

紙議員は「勤労統計の不正が発覚して、実際には実質家計消費も実質賃金も下がり続けている。景気回復という増税の根拠が崩れた今、増税を強行するのかが問われています」と話し、佐野議員は「国言いなりに消費税増税を進め、国保料の負担を道民に押しつけ

る、こんな道政を変えるために、引き続きがんばります」と訴えました。

カジノ誘致に怒り心頭！！

女性団体の報告

佐野議員は2月19日、女性団体の会議に出席し、道政報告を行いました。

子どもの貧困が深刻な北海道で、子ども医療費助成制度が、全国の都道府県の中でもっとも遅れていること、高橋知事がカジノの誘致に積極的なこと、道幹部

の女性比率が、高橋道政の16年間でわずか8人、2%に過ぎないことなどの報告に、驚きと怒りの声が上がりました。「カジノに反対し、子どもの未来を守るためにがんばっている佐野さんに、これからもがんばって欲しい」と、激励の声が寄せられました。

私と献血～必要な人の役に立ちたい

さのっちのホット一息

16歳から始めた献血が、この度で92回目となりました。

飲み物や記念品をもらえたり、場所によってはパンやアイスを食べられたりするの、楽しみの一つではありますが、何よりも「必要としている人の役に立てる」という喜びと、自分が健康であることの証明でもあるように思えて、これまで続けてきました。提供が大変だと、躊躇していた骨髄バンクにも、昨年登録しました。

競泳の池江璃花子選手が、白血病を公表して世界に衝撃が走りました。つらい状況についての報道もあり、本当に心配ですが、池江選手の一日も早い回復を願うばかりです。一方で、骨髄バンクへの問い合わせも急増したとのことで、骨髄バンクへの理解が広がり、移植を待つ多くの人に届いて欲しいと思います。

血液も骨髄も、必要としている人が沢山います。これからも人の役に立ちたいと思いますし、健康のバロメーターでもある献血、健康に留意してこれからも続けたいと思います。